

公表日：平成21年7月9日

茨城県景気ウォッチャー調査結果 (平成21年6月調査)

調査の目的

- ・経済の第一線で働いている方々から、景気に関する生の情報を得ます。
- ・その景気に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに、迅速に公表します。
- ・県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料となります。

調査の概要

- ・調査客体数...県内5地域(県北, 県央, 鹿行, 県南, 県西)ごとに60名, 計300名です。
- ・調査内容...景気の現状, 先行き判断とその判断理由を質問します。
- ・調査時期...四半期(6, 9, 12, 3月)ごとに実施し, 翌月公表します。

調査結果の概要 (回答率 96.3% 300名中289名より回答)

全体の現状判断DIは34.8となり前期(平成21年3月)比16.3ポイント上昇し, また先行き判断DIも43.3と前期比15.1ポイント上昇しましたが, 横ばいを表す50は下回りましたので, 引き続き景気は下降局面にあります。

【参考】これまでの最低値 現状判断DI 平成21年3月の18.5
先行き判断DI 平成20年12月の19.7

地域別の現状判断DIは, すべての地域で前期から上昇しましたが, 横ばいを表す50は下回りました。

景気現状判断DI			景気先行き判断DI			(注)「変化傾向」の説明: DI値50%超 → DI値50 → DI値50未満 ←
区分	()は前回調査との比較	変化傾向 (DI値50を基準)	区分	()は前回調査との比較	変化傾向 (DI値50を基準)	
県全体	34.8(+16.3)	→ (8期連続)	県全体	43.3(+15.1)	→ (7期連続)	DI (Disunion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つであり, 景気の方角性(景気が上向きか下向きか)をみるもので, 50が横ばいを表しています。 茨城県景気ウォッチャー調査では, 回答を5つの区分ごとに点数で表し, その点数を回答構成比(%)で乗じてDIを算出しています。
県北	32.6(+16.4)	→ (9期連続)	県北	41.5(+16.9)	→ (7期連続)	
県央	30.3(+10.2)	→ (8期連続)	県央	41.2(+15.3)	→ (8期連続)	
鹿行	33.2(+19.2)	→ (7期連続)	鹿行	42.7(+14.6)	→ (7期連続)	
県南	42.1(+18.9)	→ (7期連続)	県南	44.7(+14.2)	→ (7期連続)	
県西	35.8(+16.7)	→ (8期連続)	県西	46.1(+14.3)	→ (9期連続)	

3か月前と比較した景気の現状判断DIは、前期（3月調査）比16.3ポイント上昇して34.8となりましたが、横ばいを表す50を8期連続で下回りました。

「家計動向関連DI」は、前期比15.2ポイント上昇しましたが、8期連続で50を下回りました。「企業動向関連DI」は、前期比17.8ポイント上昇しましたが、9期連続で50を下回りました。また、「雇用関連DI」は、前期比19.0ポイント上昇しましたが、7期連続で50を下回りました。

景気ウォッチャーの主なコメント

- ・法人需要の落ち込みが目立つようになってきている。加えて、新型インフルエンザで個人・団体とも外出を自粛しているため、キャンセルなども発生している。（観光型ホテル）
- ・定額給付金が支給になった辺りから、客足は伸びたが一過性のもので継続しないように感じる。実際に、客単価としては増加していない。（衣料品販売店）
- ・会社から配車される回数がめっきり減った。スーパーなどで待機していても、乗客はワンメーターなどの短距離客がほとんど。乗客との会話でも「働く日数が減少した、残業がなくなった。」など不況感をひしひしと感じる内容が多い。（タクシー運転手）
- ・政府のエコポイント施策により相乗効果に伴い売上好調（特にエコポイント対象商品として液晶・プラズマテレビ・エアコン・冷蔵庫）入店客数が増加することから店舗全体が活気づいてきている。（家電販売店）
- ・エコカーへの代替が非常に多く受注量も前年比200%を超えている。（自動車販売店）

3か月先の景気の先行き判断DIは、前期（3月調査）比15.1ポイント上昇して43.3となりましたが、横ばいを表す50を7期連続で下回りました。

「家計動向関連DI」は、前期比13.8ポイント上昇しましたが、7期連続で50を下回りました。「企業動向関連DI」は、前期比16.4ポイント上昇しましたが、9期連続で50を下回りました。また、「雇用関連DI」は、前期比20.0ポイント上昇しましたが、7期連続で50を下回りました。

景気ウォッチャーの主なコメント

- ・環境対策車購入補助制度が始まったので、買い替え需要に期待している。（自動車販売店）
- ・客との話で「この景気はあと1年か1年半は続くだろう。」との意味の会話が非常に多い。「今は、我慢の時代。」との話がほとんどだ。（商店街代表者）
- ・新聞報道等で自動車産業の増産のニュースを目にするようになってきた。悪いながらも良い方向に進むことを願う。（製造業（鉄鋼業））
- ・毎日客や接する人すべて声をそろえて景気の悪さを話にする。また、今後、1年後、2年後と全て縮小する予定しかない現在で、回復する見込みも考えられない。（観光型ホテル）
- ・最近、客もお金が無いなら無いなりに買い物するようになっており、現状の状況に対応し始めているように感じる。これ以上の悪化は考えにくい。やや良くなって行くことを期待したいが、ボーナスの減少などで、しばらく現状の状態が続くのではないかと。（コンビニエンスストア）

地域別の動向

景気現状判断DI	【平成21年6月調査】	
	県全体	34.8 (+16.3)
県北地域	32.6 (+16.4)	県央地域 30.3 (+10.2)
鹿行地域	33.2 (+19.2)	県南地域 42.1 (+18.9)
県西地域	35.8 (+16.7)	
()は前回調査（平成21年3月）との比較をしたものです。		

景気先行き判断DI	【平成21年6月調査】	
	県全体	43.3 (+15.1)
県北地域	41.5 (+16.9)	県央地域 41.2 (+15.3)
鹿行地域	42.7 (+14.6)	県南地域 44.7 (+14.2)
県西地域	46.1 (+14.3)	
()は前回調査（平成21年3月）との比較をしたものです。		

■調査から

1 県北地域

現状判断：景気の現状判断DIは32.6となりました。前期比16.4ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を9期連続で下回りました。

景気ウォッチャーの主なコメント

- ・貨物量は去年の10月をピークにして減少し続け、年を越して1月に入ってさらに落ち込み、2月は前年同月比の約60%の貨物量にまで落ち込んだ。5月はゴールデンウィークがいつもの年より各工場が長く休みを取ったので前半は動かなかったが、後半は常陸那珂港の貨物が動いてきた感もあり、まずまずの荷動きとなっている。(運輸業)
- ・企業の設備投資が、減少しており製造業が依然として厳しい状況にある。個人所得も減少傾向(夏期賞与も回復の兆しなし)にあり消費が鈍化している。(金融業)

先行き判断：景気の先行き判断DIは41.5となりました。前期比16.9ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を7期連続で下回りました。

景気ウォッチャーの主なコメント

- ・日立港、常陸那珂港の荷動きが上向いている。(運輸業)
- ・民間は、まだ低迷状態が続くと思うが、公共事業の早期発注が進み、発注量も増加が期待されるのでやや良くなっていると思う。(建設業)

2 県央地域

現状判断：景気の現状判断DIは30.3となりました。前期比10.2ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を8期連続で下回りました。

景気ウォッチャーの主なコメント

- ・自動車関連の原材料の出荷が予想以上に早く始まった。(運輸業(道路貨物運送業))
- ・県庁東側にホームセンターとショッピングセンターがオープンして千波地区・笠原地区の顧客が中心街に来なくなった。来街頻度に影響している。水戸市の26万人規模の人口ではショッピングセンターがオープンする度に周囲に影響が出る。(商店街代表者)

先行き判断：景気の先行き判断DIは41.2となりました。前期比15.3ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を8期連続で下回りました。

景気ウォッチャーの主なコメント

- ・例年夏場には、平日優待券の取り扱いが始まるので、予約申込みが増加傾向を示している。(ゴルフ場)
- ・ETC割引も、首都圏から茨城まででは割安感が薄いためか、入場者の増には効果がなかったと感じられ、今後もこの傾向は続くと思われる。(レジャー施設)

3 鹿行地域

現状判断：景気の現状判断DIは33.2となりました。前期比19.2ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を7期連続で下回りました。

景気ウォッチャーの主なコメント

- ・ユーザーの在庫整理が進み、出荷量は予想以上の回復を見せている。しかし、値下げ要請が厳しく、上昇し始めた原材料経費の吸収が難しいため、利益確保は厳しい状況である。(製造業(化学工業))
- ・6月現在、好転の兆しは見えない。鹿島臨海工業団地内の企業・事業所等へ求人開拓に向くも求人の獲得に至っていない。現時点では、製造業での求人はほとんど見込めない状況だ。(求人開拓員)

先行き判断：景気の先行き判断DIは42.7となりました。前期比14.6ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を7期連続で下回りました。

景気ウォッチャーの主なコメント

- ・根菜類、園芸関連の生育が良好だ。長期気象予報（3か月）を見ても、平年並みの安定した気候に恵まれ、稲の生育にも不安がない。（農業関係者）
- ・設備資金の相談が若干あるものの、計画の具体化には時間を要し、先行きの見通しもまだまだ楽観できない状況にあり、横ばいに推移すると思われる。（金融業）

4 県南地域

現状判断：景気の現状判断DIは42.1となりました。前期比18.9ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を7期連続で下回りました。

景気ウォッチャーの主なコメント

- ・政府施策のエコポイントスタートにより省エネ家電の買い替えが加速している。（家電販売店）
- ・求人件数は減少傾向、求職者は増加傾向にあるものの、製造業でも少しずつ受注が入り始め、新たな募集を検討している企業がある。（求人开拓員）

先行き判断：景気の先行き判断DIは44.7となりました。前期比14.2ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を7期連続で下回りました。

景気ウォッチャーの主なコメント

- ・在庫調整が進んでいる様子があり、生産量の見直しも検討されてきている様子もある。（人材派遣業）
- ・一時の深刻な声は聞かれなくなった。最悪の状況は脱しつつあると感じられる。しかし閉鎖、撤退、倒産する企業もあり、予断を許さない。（求人开拓員）

5 県西地域

現状判断：景気の現状判断DIは35.8となりました。前期比16.7ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を8期連続で下回りました。

景気ウォッチャーの主なコメント

- ・半導体、液晶関連での受注の動きが顕著。在庫調整が終わり、急激な立上りが見られる。但し、本格的な回復（ピーク時）には至っていない。（製造業（化学工業））
- ・客が1回に買う買物の客単価が減少し続けている。男性客でも10円、20円の割引セールにも飛びつくようになってきている。明らかに客が自分の買物の上限額を決めていて無駄な商品を購入しなくなっている。（コンビニエンスストア）

先行き判断：先行き判断DIは46.1となりました。前期比14.3ポイント上昇しましたが、横ばいを表す50を9期連続で下回りました。

景気ウォッチャーの主なコメント

- ・来年3月末まで政府エコポイント施策が継続されるので売上げ拡大が見込める。今年も昨年同様の暑さが予測されているのでエコポイントの需要と共に期待できる。（家電販売店）
- ・客との話で「この景気はあと1年か1年半は続くだろう。」との意味の会話が非常に多い。「今は、我慢の時だ。」との話がほとんどだ。（商店街代表者）

（注）本調査の結果報告書（全文）は「いばらき統計情報ネットワーク」に掲載しておりますので、ご参照ください（PDF形式）。

URL : <http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.html>